練馬区基本構想審議会　第３回懇談会
議事要旨（確定版）

日時：平成 21 年２月 14 日（土）午前９時 30 分～11 時 35 分
場所：練馬区役所本庁舎５階庁議室

<<議事次第>>

１．開会
２．地域コミュニティを育む方策の検討
３．（仮称）ねりま未来プロジェクト「まちの魅力を引き出し、活力を高める」の検討
４．（仮称）ねりま未来プロジェクト「自ら学び、考え、行動できる心豊かな人を育む」の検討
５．各分野の目標と基本政策の検討
６．閉会

<<出席者（五十音順）>>

秋元和子、秋山哲男、浅野祐介、大杉覚、大屋幸恵、高橋徳行、沼田美穂、林真未、本山裕一、若井治子（以上 10 名）

<<傍聴者数>>

４名

１．開会

■会長

・練馬区基本構想審議会第３回懇談会を開催する。この懇談会は何かを決めるというよりも、意見集約の前に委員に意見を出してもらうのが趣旨である。事務局より委員の出席状況等について報告をお願いしたい。

■事務局

・10 名の委員が参加している。傍聴者は４名である。区側からは、区民生活事業本部産業地域振興部経済課長、同商工観光課長、教育委員会生涯学習部生涯学習課長が出席している。

２．地域コミュニティを育む方策の検討

■会長

・地域コミュニティについて、前提がはっきりしないと議論が前に進まないため、事務局からたたき台を出してもらった。前回出席した方には重複感があるかもしれないが、ご説明いただきたい。

■事務局

－第二回懇談会配付資料１について説明

■会長

・かなり包括的にまとめていただいている。特に初めてこの内容をご覧いただく方からご意見をいただきたい。

■副会長

・連携という表現に対して他の委員からもご意見があったようだが、連携というよりは重層的になっている。これは既存の組織を前提としているからではないか。これをどう変えていくかを明確にする必要がある。

・既存の組織が脆弱化している理由を明確にし、どのように改善していくかを明確にしなければ絵に描いた餅になる。女性や子どもを持った親が参加しやすい仕組みを考えないといけないのではないか。

■委員

・イメージはよく分かったが、具体的な方策が分からない。検討の視点としてあげられたような内容をどこで今後議論していくのか。

■事務局

・そこまでの点について基本構想審議会の場で明確にするのは難しいのではないかと考えている。基本構想を受けて具体化する段階で検討することを想定している。

・図でいえば、網掛けがなされている部分が行政として施策を実施する部分である。

■会長

・この図はまず現状を明確にし、それに対し現時点で行政が何をすべきと考えているかを

表したものだが、基本構想審議会という場だけで具体的なことまでは決められないと思われる。

■委員

・基本構想審議会としては、これからの考え方をきちんと示すということではないか。子育ての場では現場と行政のミスマッチが生じており、それを解消するためには柔軟性をもってやるべきである、ということを打ち出す必要がある。

・たとえば、図には既存の組織がずらっとならんでいるが、私が子どもを産んだら、これらの組織に連絡するかといえば、しないと思う。既存の組織にとらわれない柔軟性をもって取り組むということを審議会として打ち出すべきである。

■委員

・副会長と同意見で、まずは参加しやすい環境づくりが重要である。また、実効性のある形にしなければいけない。たとえば、町会に入るメリットとは何だろうか。個々人にとって参加するメリット、インセンティブがなければ参加は促進されない。

■委員

・私自身もこの図に位置づけられている組織に参加しているが、これら既存のものはみんなバラバラであり、組織間のエゴもあるし地区ごとの差も大きい。いずれの団体も、自らのやり方や組織が一番良い、という考えで取り組みを進めている面があり、これら既存のものを基盤としてやっていてもうまくいかないのではないか。

■委員

・若い人に対して、任せるといっておきながら、その若い人の意見が否定されると誰も参加しなくなってしまうが、そういう空気が既存の組織にはある。

■副会長

・これまで既存の組織の運営を担ってきた人も、若い人にこれまでの実績を否定されたような気持ちになっているのではないか。何かを変えるためには、お互いの意識を変えなければならない。

■委員

・既存のものを全否定するのはもったいないと思う。既存のものを生かしながら新しいものをつくっていくべきである。

■事務局

・用意した図も既存のものをそのままベースとするという意味ではなく、既存の組織を生かしながら、コーディネートする人が必要であるといった観点から支援策を打ち出していき、新しい体制をつくっていきたいということを表わしている。

■会長

・この図に位置づけられている「★人材」とは、どのようなイメージか。職員か、地域内外の民間の専門家か、もう少し具体的に説明してほしい。

■事務局

・イメージとしてはその両方である。現状も地域に区の職員 OB を地域支援推進担当者として配置し、青少年育成地区委員会の事務局機能や地域情報コーナーなどを担当しており、第３層にはそういったものの拡充も想定している。

・ただし、一律の地区割りにはならないだろうと考えている。

■委員

・私はこの図でイメージがよく分かった。それぞれの組織で苦労して運営しているのだと思うが、それが体系的に組織化されていないために一つの方向に向かっていかないということだと思う。たとえば、教育における多世代連携教育といったことも、方向性を示しながら支援するという区の機能が必要である。以前会長が既存組織の意識を変えるには 100 年かかるとおっしゃったことが印象に残っており、時間がかかる問題である。

■会長

・地域支援推進担当者について、事務局からもう少し補足説明をしていただきたい。

■事務局

・地域に総括係長クラスの退職職員を配置し、青少年育成地区委員会の事務局などを行っている。

■会長

・他区においても職員に地域担当を併任させて配置している例はある。いろいろなやり方が想定されるが、地域の事情も多様性があるので、同じやり方でうまくいくとは限らない。地域の状況に応じた対応策が必要である。

・今日は二つの未来プロジェクトについても議論する必要があるため、そちらの議論に移らせていただきたい。

３．（仮称）ねりま未来プロジェクト「まちの魅力を引き出し、活力を高める」の検討

■事務局

―本日配付資料１、資料１－２、１－３について説明

■会長

・ご質問、ご意見をいただきたい。

■委員

・アニメについて、練馬区は漫画の聖地でもあると思うが、アニメに特化した理由は何か。漫画とあわせて両方打ち出した方が良いのではないか。

■商工観光課長

・ご指摘の通り練馬区には高名な漫画家も在住しているが、産業に結び付けるという観点から、アニメを主体として打ち出す形となっている。

■委員

・アニメと漫画は、作り手から見れば全く別のものだと思われるが。

■商工観光課長

・深くこだわると確かに別のものであるが、あくまで産業振興への活用という観点から、アニメの原作として漫画も捉えている。

■委員

・農業について、農業を産業として振興し継続していかないと絵に描いた餅になる懸念があるが、具体的には、ヘルパーのような方と農家の方の継続的な関係性をどのように考えているか。例えば、休耕地をヘルパーやボランティアが改善していくことはあるのか。

■経済課長

・新しい農業の担い手の育成は今後の大きな課題だが、既存の制度では、農家が農地を貸し出すと税制上の優遇措置が外れてしまうので難しい。産業として振興するため、まずは市場価格に左右されない行きかたとして地産地消や観光農業、体験農園などが重要と考えている。

■委員

・ヘルパーは、農家が忙しい時に手伝ってもらう人と捉えているか。

■経済課長

・その通りであるが、現状の問題として、ヘルパー希望者は多いが農家のニーズが少ない状況にあり、農家への PR に努めている。

■委員

・アニメについて、環境イベントの景品にアニメ関連企業からキャラクター商品の提供を受け、これが非常に人気を博したことがある。このように、他の分野の取り組みにアニメを生かしていくことが有効ではないか。

■商工観光課長

・ご指摘の通りアニメは多様な場面で活用することができると考えている。地元にそのような企業があるからこそ活用できるということを伝えていきたい。

■委員

・審議会としては、アイデアそのものではなく、こうしたアイデアが生かされていく仕組みや姿勢を打ち出していくことが重要である。

・たとえば、大泉に子ども家庭支援センターがつくられるに当たって、施設の設計に現場の方の意見が反映されず、現場の方にとって違和感のある内容になっていたり、ねりまキッズ安心タクシーを導入する際に、手続きの関係で当初アイデアを出した人が締め出されたりといった問題がある。

■委員

・アニメを地域産業の活性化に活用するに当たって、ライセンスや知的財産の問題により難しい状況になる可能性が懸念されるが、これに対して区として何らかの対応することは考えていないか。

■商工観光課長
・ご指摘の通りであり、著作者の権利は適切に尊重するのが基本だが、アニメのライセンスは複雑であるため、将来的に、それを取りまとめて処理する何らかの体制が必要であるという認識は持っている。
■委員
・石ノ森章太郎さんの家の周りにキャラクターの像などが置かれている。ここを地域の子どもに紹介したいといったところ、快く承諾してくださった。
■会長
・今のような地域レベルの話のうちは良いが、それが何らかのビジネスに結びついてしまうと難しい話になる可能性もある。
・アニメは裾野の広がりの多い産業であり、応用可能性も広い。農業も重要な産業であり基本構想できちんと位置づけていきたい。

４．（仮称）ねりま未来プロジェクト「自ら学び、考え、行動できる心豊かな人を育む」の検討

■事務局
―本日配付資料２－１、資料２－２、２－３について説明
■会長
・ご質問、ご意見をお願いしたい。
■委員
・小学校の地域開放が熱心な地域に住んでいるが、その情報が乳幼児の子育てをしているお母さんには伝わりにくい。
・一方、「子育てのひろば」も乳幼児のお母さんにとっては有意義な場であるが、質の高いものから低いものまでいろいろある。
・赤ちゃんのいるお母さんがスポーツを楽しむことのできる環境は子育て支援として重要であるため、両者の風通しを良くすると、両方とも機能が高くなると思う。
■事務局
・ご指摘の通り、子育て家庭の支援と子どもの育成は明確に分けにくい部分がある。
■委員
・学校開放は学校に子どもがいる親にばかり情報がいくという現状がある。
■生涯学習課長
・学校開放について区民全般によく知られていない面があり、今は、区報の一面で紹介したりもしているが、より一層伝わるように検討したい。
■委員
・先ほどから同じことを言っているのだが、せっかくやっている事業が知られていないのはもったいない。情報のアウトリーチが重要である。

■会長
・そういった面でも地域コミュニティや地域のつながりが重要である。
・人材育成が重要だが、効果を考えるとどうか。受講した人たちが、実際にそういう役割を地域で果たしているか。概略説明してほしい
■委員
・今の仕組みでの評価ではプレゼンテーションの上手い人などが高く評価され、本当に頑張っている人が評価されない。
■事務局
・事業説明には、受講者だけでなく受講後の登録者の人数等も記載している。
・行政内部では、こうした事業は行政評価の仕組みの対象になっているが、量的な把握が中心であり、これらの人々が実際どんな風に活躍しているか、とらえる必要があると認識している。
■会長
・区民との意見交換会などで、昨今の経済情勢への対応も重要であるという意見があったが、練馬区でも緊急雇用のため 200 人超を募集したということを聞いた。この取り組みについて聞きたい。
■事務局
・緊急雇用として 10 億２千万円を超える人材採用予算を計上している。計算できる分で 290 人程度を予定している。区の非常勤職員の募集では 20 人の募集に対して 130 人の応募があった。
■会長
・他地域では１～２ヶ月の短期であるのに対し練馬区は１年間の雇用なので人気が高いのだろう。
・福祉は全国どこでも人が足りない。練馬のような 70 万人都市でどのように対応するかは今後大きな問題である。
■委員
・地域活動を担う人材の育成について、必要とされていない人材を育成して送り込んでも問題の解決に結びつかない。たとえば、農業サポーターも農家のニーズが少ないという話がある。もう少し工夫が必要である。
■経済課長
・農家との間に関係性が生まれ、その中から就農につながっていくのが理想だとは考えている。そういった積み重ねの中で人材育成も考えていきたい。
■委員
・ねりま未来プロジェクトの政策・事業について、その重要度はどの程度か、これで内容的に十分なのか、適切なのか、またその成果をどう評価するのか、目標値が設定できるか、いつごろ評価するのか、といったあたりについてどのように考えているのか。また、そう

いう政策評価を行える人材を役所の中で育成しておく必要がある。博士が一人育つ程度の人材育成が必要である。

■会長

・ねりま未来プロジェクトは特に重要だが、今のご指摘は全体を通じていえることだと思う。

■委員

・エコ・アドバイザーは、累計人数は資料にある人数の倍だが、やめてしまう理由は、活動の場がないからである。ニーズとのミスマッチがある。

■委員

・需要と供給のミスマッチもあるが、ものによっては相当な専門性が必要であり、単に講義をするだけではだめなものもある。

■事務局

・アドバイザーという名称が大げさすぎるのかもしれない。

■委員

・練馬区の中できちんとした資格を設けてステップアップしていくプロセスが必要である。

■委員

・アドバイスなどの活動を本当に分かってやっているのか疑問があるケースは多々ある。せっかくやるならきちんとやるべきである。

・練馬で年越し派遣村の事後処理のような取り組みが行われていたようだが、そういう取り組みは教育的価値が高い。例えば、そこで仕事をして実態を知った職員が、中学や高校でそれを話して聞かせるなど、一見全く関係のないものをつなげることで新しい価値が生まれる。そういう柔軟性のある考え方を盛り込んで欲しい。

■委員

・ねりまエコ・アドバイザーは実にいろいろな活動をしており、多様である。

・毎週白子川に入って地域環境を調査している人等もおり、地球温暖化のような大きな視点からのアドバイスも大切であるが、具体的な地道な活動を通じて子どもたちに分かってもらうようなことを草の根で実施することも重要であると思っている。

・それなりにブラッシュアップを行っている人たちも多い。

■委員

・ジュニアリーダーの養成に関わっていた。ジュニアリーダーが地域で何かするときに大人の支援が必要である。

・知人が地域福祉パワーアップカレッジねりまに参加しており、かなり費用がかかるが、それをかけてでも勉強したいという人たちがいる。こういう人たちをいかに活用していくかが重要である。

■委員

・それぞれの活動の内容が分かっていないということが最大の問題ということではないか。

そうであれば、横断的なプロジェクトでそれをフォローできるような組織を作っていくことが重要ではないか。

５．各分野の目標と基本政策の検討

■会長

・時間がなくなってしまったため、これについては、次回、第 10 回審議会で議論するということにしたい。

６．閉会

■会長

・できれば意見のある委員はそれぞれペーパーを出してもらいたい。

■委員

・会長からの「意見は具体的に」とのご指示を踏まえて、以前のたたき台の気がついた点に対し対案を資料にまとめて提出した。

■事務局

・17 日までにご意見をいただくというのは厳しいと思われるが、可能な方はご意見をいただきたい。

・次回は 2 月 17 日（火）午後 6 時 30 分からの開催予定である。

（以上）